

茨城県県北農林事務所
常陸大宮地域農業改良普及センター

〒319-2255 茨城県常陸大宮市野中町3083-2
TEL. 0295-53-0116 FAX. 0295-53-1077
(大子駐在) 〒319-3361 茨城県久慈郡大子町頃藤6690-1
TEL. 0295-74-0461 FAX. 0295-74-0769

普及センターだより



JA常陸奥久慈枝物部会の
ブランド力向上の取組

▲ 部会 の 皆 様

JA常陸奥久慈枝物部会（以下、部会）は、常陸大宮市・大子町・常陸太田市にまたがる広域の切り枝生産部会です。生け花や花束に用いられる約二五〇品目の「枝物」を周年で出荷しており、令和六年度販売実績では、二億五〇〇〇万円を達成しました。令和元年には、「奥久慈の切り枝」で県銘柄産地に指定されています。

○部会の取組

部会では、ハナモモを中心に枝物の安定生産、目揃いや研修会の開催、生け込み装飾等による枝物PR活動、及びニーズに応じた出荷や作付け等に取り組んでいます。枝物PR活動では、地元の若い世代に花文化を継承し、また地域活性化を図るため、全国高校生花いけバトル茨城大会の支援も行っています。

普及センターでは、産地の更なる発展やブランド力向上のため、栽培技術や、新規就農者への支援を中心に、部会の取組を後押ししています。



▲第54回日本農業賞表彰式
（令和7年3月9日）
左：部会長、右：会長

○第五十四回日本農業賞（集団・組織の部）大賞を受賞
約二〇年前に九名で始まった部会は、定年帰農者を中心に耕作放棄地を活用しながら産地を拡大してきました。部会のこれまでの様々な取組が評価され、令和七年三月に、農業界での権威ある「日本農業賞」で、頂点となる大賞を受賞し、日本農業を牽引するトップランナーとして認められました。今後、産地の更なる発展が期待されています。

○栽培してみませんか

令和七年十一月時点で部会員は一五三名と年々増えています。部会員のの中には、定年帰農者や、他産業に従事しながら枝物を栽培・出荷している方も多くいます。新規就農や複合経営も歓迎します。部会の推奨品目の提案も行っております。

お気軽にお問合せください。

有機農業の取組

普及センターでは、農業の振興を図るため、付加価値を高めた農産物生産の取組として有機農業を推進しています。常陸大宮市も令和五年一月に県内で初めてオーガニックビレッジ宣言を行い、有機農業の推進に力を入れています。

有機カンショに対する栽培支援

有機栽培は化学合成農薬、化学合成肥料を使用せずに栽培するため、雑草対策が重要となります。カンショ栽培では、ソルが畝間を覆うようになるまでの雑草の発生量が、その後のイモの肥大に大きく影響します。そのため、慣行栽培では、除草剤を活用し、雑草を抑えることが多いですが、有機栽培では除草剤を使用することができません。そこで、普及センターでは、(株)JA常陸アグリサポートとともに、有機カンショほ場において、効果的な畝間抑草の試験を行いました。

試験区として、①緑肥、②敷き藁、③もみ殻、④黒マルチ、⑤防草シート、の合計五区を設



▲緑肥による抑草の様子

け、除草効果や費用対効果を検討するために、雑草発生量及び除草時間等のデータを収集しました。現在、収穫量や除草の効果、設置に係る労働力等を分析しながら、どの方法が適するか次の作に向け検討をしています。

普及センターでは有機農業の取組を推進するため、今後も支援していきます。

リンゴ高品質安定生産の取組

大子町は県内一の観光直売型リンゴ産地です。主力品種の「ふじ」を中心に、蜜の多い「こうとく」や地域のオリジナル品種「奥久慈宝紅」等、特色ある品種が栽培されており、県外でも知名度が高まっています。

JA常陸大子町りんご部会では、高品質安定生産を目的に、剪定講習会(一月)、防除検討会(二月)、摘果講習会(六月)、夏期管理検討会(七月)などを開催し、年間を通じて部会員の栽培技術向上に取組んでいます。



▲防除検討会の様子

また、近年は、夏季高温等の気候変動への対応として、部会と普及センター、関係機関が連

携し、現地の事例を収集しながら、日焼け果や着色不良への対策を呼びかけています。本年度は、日焼け果発生軽減効果を確認するため、遮光ネット設置の現地試験も実施しました。

土壌診断の取組

皆様は、ご自身のほ場の土壌成分状態を把握していますか。成分バランスが良いと作物の成長も良く、逆に、バランスが悪いと作物の成長を妨げ、生理障害になる可能性もあるとされています。

普及センターでは、毎月一回土壌診断を実施しています。診断項目は、pHとEC、さらに石灰、苦土、加里、リン酸の成分量でバランスを調べることで出てきます。また、診断結果を元に土壌改良資材の施用量についても提案をしています。

自分のほ場に足りない成分と量を把握できれば、必要な分のみを施用することで資材費の削減にもつながります。

調べたいほ場から三〇五か所の土を合わせて茶碗一杯程度(約一五〇g)お持ちいただければ、土壌診断ができます。

是非、普及センターの土壌診断をご活用下さい。



新任青年農業者の紹介

茨城県では、将来、地域農業の担手となる農業青年を青年農業者として認定しています。令和七年度は、管内から青年農業者一名が認定されました。



うみの まさとし
海野 雅俊さん

海野さんは、常陸大宮市で促成長期どり大玉トマト栽培を行い、環境制御装置を活用した栽培の高度化に取組んでいます。また、地域の若手農業者組織の会長を務めた経験もあり、今後地域農業を牽引する存在として一層の活躍が期待されます。

最新情報を
今すぐチェック!! ↓↓↓



▲常陸大宮地域農業改良普及センターHP



▲県北農林事務所X(旧Twitter)